

盛地申5号「電気部門の改革2022」に関する申し入れ交渉⑧

28. 各種システム等の取扱いと改修時期・内容を明らかにすること。

回答

設備管理システム、電気総合検測車システム、定常状態監視システム等を2019年度に改修することで予定している。

【主な議論】TEMSに関わるもののシステム改修は2019年度上期には終了。電力・信通共にこの施策の最終形のシステム改修は2019年度中に完了することを確認。

29. 移管エリアに関して、管理メンテナンスセンターのメセ長財源での単契発注を行うのか明らかにすること。

回答

管理メンテナンスセンターからの単契発注については、現行通り行っていく考えである。

【主な議論】

電力・信通ともに今後も使える体制はとっていくことを確認。信通についてはエリア拡大に伴い予算拡大も検討していく考えが示されました。

30. デポの環境を明らかにし、配備されるシステム環境、復旧材料、工具・備品について明らかにすること。

回答

Joi-Net 端末や復旧材料、工具、備品等を配備する予定である。また、デポの管理については管理メンテナンスセンターが行うこととなる。

【主な議論】

デポの場所は電力は現在の在来箇所をデポ化、信通は北上は高架下、八戸は旧TEMS SCで検討中。Joi-Net 端末の配備、執務スペース、工具、予備品が共通して整備。現行の北上メセで管理したものをそのままとなる予定。災害備品なども含め管理メセが管理することを確認。

31. 大湊線の障害早期復旧のため野辺地エリアにデポを設置すること。

回答

現時点で、野辺地エリアにデポを設置する考えはない。

【主な議論】

これまでも苦慮していた現実を訴え、デポ機能でなくても障害の早期復旧の為に復旧材料だけでも置ける倉庫的なものを主張しましたが、会社からはデポの設置によって棚卸業務が発生や、障害時には第2陣の出勤により十分対応可能という考えが示されましたが、実施後、実態を見て必要となれば今後検討していくことを確認してきました。

32. TEMSへの貸与品を明らかにし、管理する箇所を明確にすること。

回答

デポに配備されている工具、備品等については、必要により貸与を行うこととなる。貸与品の管理については、管理メンテナンスセンターが行うこととなる。

【主な議論】

軌陸車や3D解析装置などの長期貸与のものについてはTEMSで管理となるが、修理などは貸与しているJR。デポのものについてはTEMSと共用で使えるようにしているが管理は管理メセとなることを確認